

だ美
よ術
り館

Contents

びっくりぎょうてん!紙わざの世界展	[2~4]
「小野光太郎コレクション」展	[5]
福井県立美術館ボランティアの会10周年	[6]
イベント報告 無言館 遺された絵画展	[6]
平成17年度移動美術館小浜展1	[7]
美術館 友の会	[7]
お知らせ・貸館情報	[8]
日本まんなか共和国	[8]

〈表紙・加藤 博之「しまうま」〉



夏休み子ども向け企画・
福井県立美術館ボランティアの会
10周年記念



1

「びっくりぎょうてん! 紙わざの世界展」

会 期:平成17年 8月13日(土)~8月28日(日)

休 館 日:会期中無休

開館時間:午前9時~午後5時 (入場は午後4時30分まで)

夜間閉館:毎週金曜日は午後8時まで (入場は午後7時30分まで)

主 催:福井県立美術館・福井県立美術館ボランティアの会

観 覧 料:一 般 600円 大・高校生 400円 中・小生 200円

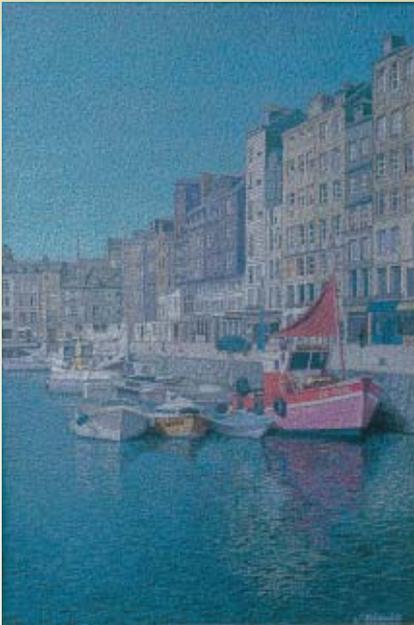
(30名以上の団体は2割引)



6



8-1



2



3



5



4

このたび、福井県立美術館では、夏休み子ども向け企画展「びっくりぎょうてん！紙わざの世界展」を開催いたします。

本展は、静岡県島田市で開催される一大ペーパーアートコンクール「紙わざ大賞展」のなかから、歴代の「大賞」「準大賞」「優秀賞」など特に優れた作品を中心に約70点を選んで展示し、奇想天外なペーパーアートの世界を紹介するものです。

また、福井県立美術館ボランティアの会が10周年を迎えたことを記念して、会期中、ボランティア主催で子ども向けの紙を使ったワークショップを行います。そのワークショップの講師であるペーパーアートの作家の紹介、そして今まさにボランティアが総出でこの展覧会のために作っている入り口の飾り付けの準備の様子や、作品の一部などなど、盛沢山の内容をお伝えいたします。

- 1 鳥と魚の空間充填形／中村開己
(31.2×40×13.3cm ケント紙)
- 2 赤い帆 大／大久保昭一
(194×130cm 和紙による点描画)
- 3 空器／長谷川克夫
(30.5×30×30cm ダンボール・紙・アクリルボックス)
- 4 (和紙の)洋服／猪原一喜・金沢和寛
(78×146×1cm 和紙)
- 5 Pe-PET／長尾昌枝
12×8×8cm 洋紙・手ぐす
- 6 かわにくつ／河村友里恵
(10×100×42cm 紙)
- 7 P-REX 齊藤 歩
(100×100×100cm 紙)
- 8 Spiral／齊藤 歩
(45×124×62cm 紙)
- 9 PAPER BODY／齊藤 歩
(160×50×50cm シャレード紙)



8-2



9

関連企画

ワークショップ

「親子でつくろう！紙わざ」

（※）
展示会
チケットが
必要です

対象：小学校3年生以上
※小学生は要保護者同伴。
場所：当館研修棟

1 日時：8月13日(土)
「キリンのかべかけ」、または
「サイのかべかけ」(切り紙)
講師：広井利通氏
定員：20人
時間：午前の部(午前10時～12時)
午後の部(午後1時～3時)
参加費：500円

2 日時：8月20日(土)
「カマキリ」(折り紙)
講師：山本勝博氏
定員：30人
時間：午前9時30分～12時
参加費：無料

3 日時：8月21日(日)
「クワガタ」(折り紙)
講師：山本勝博氏
定員：30人
時間：午前10時～午後3時
(お昼に1時間休憩します。)
参加費：無料

4 日時：8月27日(土)
「バラ」(折り紙)
講師：山本勝博氏
定員：30人
時間：午前10時～午後4時
(お昼に1時間休憩します。)
参加費：無料

ミニコンサート

福井県立美術館ボランティアの会主催
ハンドベルとヴァイオリンデュオ

日時：8月20日(土)
場所：当館ロビー
時間：午後2時～
料金：無料(どなたでもご自由にお立ちより
ください。)
演奏者：【ハンドベルボランティアグループ】
明新ハンドベルクワイヤ
【仁愛女子高等学校/
仁愛子供のための音楽教室生】
山崎 英玲奈さん・水野 沙希さん

折り紙コーナー

会期中には毎日午前10時から午後4時まで
で会場で折り紙コーナーを設けています。



広井 敏通氏 (ヒロイ・トシミチ)
ペーパーアーティスト

1954年 神奈川県横浜市生まれ。
1985年の最初の個展「ペーパーファン
タジー展・NOMAD 宇宙をさまよえる
都市」以来数々の展示会で様々なシ
リーズの作品を発表している。カタログ、
雑誌の表紙、TVコマーシャル、セビリ
ア万博日本館等の作品も手掛けている。
最近では「花の風車」によるイベントの
プロデュースなど紙の可能性を広げる
多様な活動を続けている。



シューティングスター



クリーミータワー



ケーキシッパ

「お菓子のシリーズ」のうちの3作品。アイス
クリームとビルディング、ショートケーキと
客船、コンペイトウと流れ星など対象物の2
面性を捉え調和させた作品。



展示会の間、入口を華やかに演出し
てくれる「花の風車」は広井敏道氏デ
ザインのもので、現在県立美術館ボ
ランティアの会で250本を制作中です。



▶今、これだけ制作しました。



山本 勝博氏 (ヤマモト・カツヒコ)
日本折紙協会会員
日本折紙協会越前和紙の里支部副支部長

1965年 福井県今立郡池田町生まれ。
2003年 折紙制作を開始。
折紙制作の他に、昆虫の生態や飼育に
についても深い知識と経験を持ち、自然
環境と人間の関わりについて講演や授
業を行う。
現在、福井市立和田小学校、木田小学校
の折紙クラブの指導、福井県立恐竜博
物館・福井市自然史博物館等での折紙
教室の講師をつとめる。



バラの花と葉っぱ



ブラキオサウルス骨格(折り紙45枚使用)

第20回国民文化祭・ふくい2005(10/22
(土)～11/3(木))では、いまだに芸術館
において会場全部で山水園を表現し、折
紙で作ったさまざまな動物・鳥・花・昆
虫でうめ尽くす試みが行われる。そのな
かでも昆虫の部分を担当する。



手前がオオクワガタ。これを折ったのが折紙に夢中にな
るきっかけになる。昆虫の飼育をしていた関係上、もっ
とリアルにしたいという願望が出て、羽のパーツと胸部
を新たにアレンジして創作した。それから色々な昆虫が
折れるようになり、クワガタ、カブトムシに関しては、図
鑑を見れば殆ど折れるようになる。

「小野光太郎コレクション」展

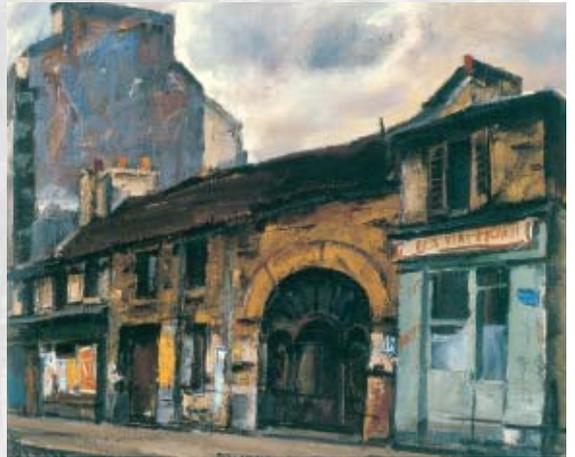
— ユトリロ「白の時代」を中心として —

福井県内には優れた個人美術コレクションがいくつもあります。中でも特に福井市内に本拠を置く小野グループが所有する美術コレクションは質、量ともに優れており、これまでも県の内外でその一部が展示、紹介されてきました。小野光太郎コレクションの内容は、西洋美術、日本美術、絵画、陶器と多岐にわたりますが、特に同氏が約40年間にわたり蒐集したモーリス・ユトリロやアメデオ・モディリアーニ、マリー・ローランサン、荻須高徳、藤田嗣治、長谷川潔、佐伯祐三など、両大戦間のパリを中心に活躍した画家たちの絵画コレクションは注目を浴びてきました。この絵画コレクションの特徴は、作品の制作年代が、画家がまだ若く、貧困の中で苦悩しながら制作している時代のものに限定されているということです。これは「画家が成功し豊かになってからと、若く貧乏な時代とではその精神性が違う」という小野氏のコレクション哲学によるもので、日本画等でいわれるいわゆる若描きとは意味が異なり、逆にその画家の最も美術的評価の高い時期の作品といえます。このように独自の蒐集哲学を持ち、長い年月をかけて収集してきたコレクションは、バブルといわれる80年代後半の経済状況を背景に短期間のうちに作られ崩壊した一部の企業コレクションとは、明確に一線を画す内容を持つものといえるでしょう。

本展では小野グループの全面的な協力を得て、小野光太郎コレクションのうち、質、量共に世界的にも類例がないといわれる「白の時代」に限定したユトリロ・コレクションから30点、同じく国内最大といわれる荻須高徳コレクションの中から、1930年代の代表的な作品を中心に20点、合計50点を借用・展示し小野光太郎コレクションの一端を紹介します。



1.



2.



3.



4.



5.

会 期：8月13日(土)～8月28日(日) ※会期中無休
 開館時間：午前9時～午後5時(但し入館は午後4時30分まで)
 夜間開館：毎週金曜日は午後8時まで開館(但し、入館は午後7時30分まで)
 主催・会場：福井県立美術館(常設展示室)
 観 覧 料：一般・大学生100円、
 高校生以下、70歳以上および身障者の方は無料
 (30名以上の団体は2割引)
 協 力：小野グループ

- 1. 荻須高徳「サン・ドニ運河」1935年
- 2. 荻須高徳「シャロンヌ通り」1930年
- 3. モーリス・ユトリロ「サン・トゥアン通りの橋」1913～14年
- 4. モーリス・ユトリロ「サルセルのプラス・デュ・ボン広場」1911年頃
- 5. モーリス・ユトリロ「フェルテ・ミロン教会」1912年

福井県立美術館 ボランティアの会10周年

1995年(平成7年)にボランティアの会が発足してから今年で10年が経ちます。それを記念して「びつくりぎょうてん!紙わざの世界展」の開催期間中(8月13日~8月28日)に、当館のギャラリーでボランティアの会の10年の歩みと活動内容を紹介するコーナーを設け、それに加えて会員が制作した工芸・写真・絵画などを展示します。その展示の第2弾は平成18年1月3日~1月15日に第2展示室で開催いたしますので併せてご覧下さい。そもそも福井県立美術館ボランティア

の会が立ちあがったのは、ナホトカ号の重油流出事故や阪神大震災などで、ボランティアの力が社会的活動として大きく取り上げられ、社会の意識が高まった頃でもありました。しかしその後も10年という長きに渡ってこの活動が続いているのは、会員になる人達が何らかの形で美術に興味関心があり、美術館と積極的に関わりを持つようとしてボランティア活動をしているところにあります。

そして現在、会員数は90名で、美術館の運営にはなくてはならない重要な



ボランティア室にて、新聞の切り抜き作業中



解説ボランティア

イベント 報告

戦後六〇年特別企画 無言館 遺された絵画展

会期:2005年4月29日(金)~5月29日(日)

講演会

「無言館」のこと - 生と死の画家たち -

5月15日(日)

講師:窪島 誠一郎氏(無言館・信濃テッサン館館主)

午後2時~4時 当館講堂にて



会場風景

無言館開設のきっかけは昭和53年の夏であった。戦地で命を落とした東京美術学校の学生の絵を集めた『祈りの画集』を見て、これを作った画家の野見山暁治氏に関心を抱いた。「とてもしんどい仕事をされたなあ」と感じた。十数年後、野見山さんにお会いし「当時でさえボロボロだった戦死した仲間の絵が、どうなっているかを考えると気が気でない」とお聞きした。私の中で何かが起こった。しばらく後、「私の運転する車の助手席に乗って下さい。一緒に遺族のもとを回りましょう」と申し上げた。「戦争体験もない人間がなぜ。そんなに簡単なことではない!」と、厳しく叱られたが、食い下

がってお願いし、遺族を訪ねる二人三脚の旅が始まった。最初は、無言館を建てようなどとは思っていなかったが、旅を重ねるうち、私の知らないところで彼らの絵が壊れてゆることが怖くなった。

無言館は、マスコミでは反戦平和の美術館といわれる。けれど戦没画学生本人たちは、平和や反戦を目的に絵を描いたのではない。彼らの絵には、生きていてうれしいという生々しい声がある。身近な命への思いやりと感謝に満ちている。真心や願いや祈りを伝えるのは技術ではない。本当に伝えたい真心があるかどうかだ。現代人が失ったそうした大切なものを、無言館の絵は呼びまし

てくれる。

無名画学生達のボロボロの未熟で未完成な絵を、全国の美術館で陳列し美術展と銘打つことに、抵抗に似た気持ちもある。しかし現代の画家たちは、何をどのように描くかについては勉強しているが、なぜ描くかという問いがない。無言館の絵は、この「なぜ」の問いを生きるものであり、美術へ突きつけるものは決して小さくはない。

(本文は講演の一部を福井県立美術館が編集してまとめたものです)



【講演会講師の略歴】

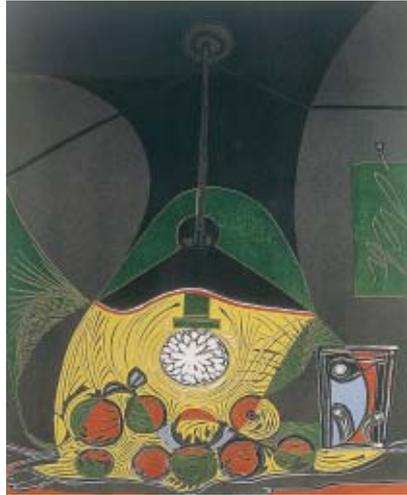
窪島 誠一郎 (くほしま・せいいちろう) 「信濃テッサン館」「無言館」館主、作家。1941年東京生まれ。

1979年に《夭折の画家》の素描を展示する「信濃テッサン館」を創設、1997年には隣接地に戦没画学生慰霊美術館「無言館」を開設した。『父への手紙』『石榴と銃』など著作も多く、最新刊に『「無言館」の坂道』(平凡社)がある。

平成16年度新収蔵作品 ピカソ、ゴヤと近代陶芸の名品

8月10日(水)～8月21日(日)

移動美術館は、当館のコレクションを地域の方々にも身近なものとして鑑賞していただくことができるよう、毎年開催するものです。今回の展覧会では、近藤悠三や加藤唐九郎らの陶磁器や、ピカソやゴヤの版画、竹内栖鳳の作品など、平成16年度の新収蔵作品を展示します。皆様のご来場をお待ちしています。



パブロ・ピカソ「ランプの下の静物」



近藤 悠三「石榴染付花瓶」

会 期:8月10日(水)～8月21日(日) ※会期中無休
会 場:福井県立若狭歴史民俗資料館
(小浜市遠敷2-104 tel:0770-56-0525)

時 間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料:一般・大学生 100円(団体30名以上は2割引)
高校生以下・70歳以上・障害者手帳等をお持ちの方は無料

福井県立美術館

友の会

福井県立美術館友の会では、6月23日(木)に、恒例の春の見学会を開催し、名古屋市美術館の一華やぐ女たち「エルミタージュ美術館展」、名古屋ボストン美術館の「ボストン美術館の巨匠たち—愛しきひとびと」、愛知県陶磁資料館の「桃山陶の華麗な世界」を鑑賞しました。

友の会会員の感想

- ◎ 陶磁資料館見学がとても印象に残った。少しだけ陶芸を習っていますが、16、17世紀の作品だけに予想の出来ない

工夫があることに、今の自分の作っている陶芸の勉強のないこと、とても残念に思う。これから、もっともっと頑張りますから……続けてやりたい!!

- ◎ 陶磁資料館見学の時間が足りず残念でした。もう一度ゆっくり見学に参りたいと思います。

- ◎ 1世紀2世紀を超えた陶磁器をこの目で見て大変楽しみました。織部焼、志野唐津、どれを観てもすばらしかったです。

- ◎ エルミタージュ美術館の10世紀～19世紀にわたる女性達の身にまとう衣装の繊細なタッチ。個性豊かで、しかしその時代を想像させる偉大な絵画の技術に感動でありました。古希を迎えた今、思い出になりました。

- ◎ 一番列車に乗り込んで参加した甲斐がありました。



お知らせ

<7月～8月の休館日について>

展示作業等のため、
8月1日(月)・8日(月)～10日(水)、29日(月)・30日(火)、9月5日(月)、26日(月)は、
 臨時休館とさせていただきますのでご了承ください。

schedule

貸館情報

- | | |
|--|---------------------------------|
| 8/11～ 8/14 ● 第20回 沙久羅会日本画展 | 8/31～ 9/ 4 ● アトリ工羊庵展 |
| 8/11～ 8/14 ● キャノンクラブ福井支部第5回写真展 | 9/ 1～ 9/ 4 ● 北庄繁会展 |
| 8/12～ 8/14 ● 第33回 福井県朝日写真展 | 9/ 7～ 9/11 ● 玲風会日本画展 |
| 8/16～ 8/21 ● 清水早苗写真展 一地・水・火・風一 | 9/ 9～ 9/11 ● こっとんくらぶの布遊び展 |
| 8/17～ 8/21 ● 第45回 ペンペン会展 | 9/15～ 9/19 ● 伊東邦義遺作展 |
| 8/19～ 8/21 ● 第26回 書玄会展 | 9/21～ 9/25 ● 第24回映彩会水彩画展 |
| 8/25～ 8/28 ● 第46回 九龍社書展 | 9/22～ 9/25 ● 第41回福井造形展 |
| 8/25～ 8/28 ● 第5回 創美の会洋画展 | 9/28～10/ 2 ● (社)福井県建築組合連合会会員美術展 |
| 8/31～ 9/ 4 ● 第6回 力力・斜展 | 9/29～10/ 2 ● 第20回日本画爽展2005 |
| 8/31～ 9/ 4 ● 第3回 夢美の会 & グループY - wai合同展 | |

8/1～10/2

広報板

日本まんなか共和国

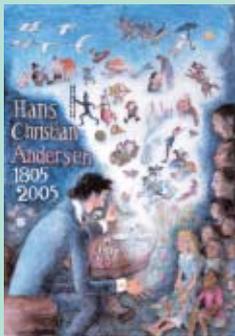
日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

ーデンマーク・夢を追いつづけた旅人ー アンデルセン生誕200年展 7月17日(日)～8月14日(日)

2005年は童話の父アンデルセンの生誕200周年にあたる。これを記念して、故郷オーデンセのアンデルセン博物館から、自筆原稿や作品、遺品、当時のファッションや風俗を物語る写真、オリジナルの挿し絵、各国語の初版本など貴重な資料を多数借用し展示する。



イブス/ハングオルセン「アンデルセン生誕200年記念ポスター」

一般 900円(700円)
 高大生 650円(500円)
 小中生 450円(350円)

※ 括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

没後35年 黒田重太郎展 8月20日(土)～9月25日(日)



大津市出身の黒田重太郎(1887～1970)は二科会で活躍し、戦後は二紀会を設立した関西洋画壇の重鎮。日本にキュビズムをいち早く紹介し、日本的で重厚な独自の画風を築いた。多くの著述を手かけ若手の育成にも努めた、隠れた巨匠の芸術の全貌を紹介する。

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

日本の美 三千年の輝き ニューヨーク・パーク・コレクション展 7月5日(火)～8月19日(金)

日本美術の大コレクションで知られるニューヨークのパーク財団から、20年ぶりに110余点が里帰する。埴輪、縄土器、仏画、絵巻、狩野派、琳派、広重など3000年にわたる日本美術の名品が展示される。



懐月堂安度「立姿美人図」

一般 1200円(1000円)
 大学生 900円(700円)
 高校生以下 無料

※ 括弧内は、前売り料金。20名以上の団体は100円引き

川が育んだ日本の伝統文化展 ー帰国展(仮称)ー 8月27日(土)～10月23日(日)

ドイツのミュンヘン民族学博物館が所蔵するシーボルト・コレクションと、岐阜県の風土が生んだ美術品や伝統工芸品をあわせて紹介する。絵画、陶磁器、染織、刀剣など幅広いジャンルから、貴重な名品と資料約150点を展示。

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

没後50年記念 安井曾太郎展 8月6日(土)～9月25日(日)

日本近代洋画の確立者として梅原龍三郎と並び称せられ、数多くの名作を残した安井曾太郎(1888～1955)の没後50年を記念して、初期から晩年に至る代表作約120点によって、安井曾太郎の芸術を紹介します。



「座像」1929年

一般1000円(800円)/高大生800円(600円)/小中生500円(400円)
 ※ 括弧内は、20名以上の団体料金

東京国立近代美術館所蔵品による 名品でたどる近代工芸のあゆみ 10月5日(土)～11月13日(日)

東京国立近代美術館工芸館のコレクションによって、明治から昭和に至る工芸の展開を紹介します。

一般900円(700円)/高大生700円(500円)/小中生500円(300円)
 ※ 括弧内は、20名以上の団体料金